

この度、JACCRO 短期海外派遣制度により、シカゴで開催された ASCO2011 に参加させて頂きました。私が **medical oncologist** を目指して現在の医局に在籍し、早いもので 10 年余りが経ちます。この間、がん薬物療法が大きく発展を遂げてきたことは、日常診療を通じて実感しております。私は ASCO への参加は今回が初めてであり、大変新鮮な気持ちで臨みました。しかし、そうは言いますが、医局からの参加者は私一人ということで、はじめは非常に心細く、学会の規模の大きさに圧倒され、聞き取るのがやっとの英語に苦しみ、孤独感と焦燥感に打ちひしがれてのスタートでした。それでも 3 日目あたりから少し現地の環境に慣れてきたのと、私と同様、一人で参加されている同世代の先生方と知り合うことができ、遠い異国の地で同じ志をもった者同士で語り合う中で、自分の役割や、自分に足りないもの、やらなければならないことなど、しっかり見つめ直す良いチャンスとなったと思います。そういった意味で、今後 ASCO への参加を迷っておられる先生、特に若手の先生には、是非この JACCRO 短期海外派遣制度を利用して参加いただくことをお勧めしたいと思いました。「自分は英語が苦手だし、海外は危なそうだし、Best of ASCO で良いかな。」などと考えておられる先生には、「全く心配ないですよ。」とお答えしたいと思います。私自身、英会話は???でしたし、次回こそは！と奮起するきっかけにもなりました。それだけでも収穫ありです。宿泊先や航空券などの手配も全てお任せ出来ますし、現地でも旅行会社の方がしっかりサポートして下さいます（大リーグのチケットの手配までして頂き、生イチローを観ることもできます）。一人でも安心して行って帰って来られます。おそらく。

既に各方面からレポートされていることと思いますが、演題数は膨大で、重要演題も多くありました。海外の重要な発表も多くありましたが、やはり今回私の一番の思い出は、JACCRO GC-03 試験 (START trial) の最終報告です。Primary endpoint の OS では、S-1 単剤に対する S-1/DOC の優越性は示せませんでした。非測定可能グループにおいては TTP、OS ともに有意な延長が認められ、今後の胃がんのファーストラインを選択するうえで大変重要なエビデンスだと思いました。ご発表されていた藤井先生には（普段私は総会や講演会などで遠くから拝聴させて頂くだけなのですが）思い切ってお声を掛けさせて頂いたところ、大変気さくに「症例登録ありがとナ、またよろしく。」とお返事と激励をいただき、ポスター前で一緒に記念写真まで撮らせて頂きました。本当に良い思い出になりました。有り難うございました。

最後に、この様な貴重な機会を与えて頂きました JACCRO の関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。また、微力ではありますが今後も引き続き参加施設としてご協力させて頂きたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。